教育研究業績書

2025年05月07日

所属： 看護学科　　資格： 教授　　氏名： 本間　裕子

研究分野	研究内容のキーワード
看護学	母性・女性看護学、家族看護学、助産学
学位	最終学歴
PhD in Nursing	The University of British Columbia, Doctor of Philosophy in Nursing 修了

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
1.授業のまとめとしての「大福帳」の活用	2018年9月～2020年3月	学生・教員間のコミュニケーション・カード「大福帳」を授業後に提出させている。授業の最後にその日学習した内容を活用して解答する問いを出題し、授業内容を復習する機会としている。
2.アメリカ看護研修	2018年4月～現在	「国際看護学」「実践看護英語」の履修生を引率し、夏季に米国ワシントン州にある本学分校 Mukogawa Fort Wright InstituteおよびWashington State Universityでの研修を実施している。渡米前には現地研修を効果的に行うために、医療英語のトレーニングを行っている。
3.効果的な実習に向けた学内演習	2017年4月～現在	3年次後期からの母性看護学実習を効果的に行うために、3年次前期の演習科目「母性看護学II」では実習で使用している記録用紙を用いて、架空事例（褥婦・新生児）のアセスメント～看護計画の立案を個人およびグループワークとして行っている。また、臨地実習で受持褥婦に対して行こなう可能性の高い保健指導項目を選択し、グループワークとして保健指導案と教材（リーフレット）の作成と、模擬集団保健指導を行っている。臨地実習で学生は自グループや他グループが作成した教材を参考に、対象の個別性に合わせた指導案・教材を作成している。
4.TVドラマ・ドキュメンタリー・ニュース動画の活用	2016年9月～2022年3月	「母性看護学I」および「母性看護学II」において、TVドラマ「コウノドリ」やドキュメンタリーやTVニュース等の視聴覚教材を活用し、学生の妊娠・出産・育児や家族の形成に対する理解を助けるようにしている。
5.一般女子大生の女性の健康問題に対する関心を高める取り組み	2015年9月～2020年3月	共通教育科目「女性と子どものヘルスケア」において、過去半年間に新聞・雑誌・インターネット等に掲載された女性の健康問題に関する記事を1つ取り上げ、内容を要約するという課題を出している。授業でも、メディアで取り上げられた最新の記事や研究成果を紹介している。
2 作成した教科書、教材		
1.直前 母性看護実習プレブック 第2版（医歯薬出版）	2019年8月	微弱陣痛の妊産婦の援助、遷延分娩後の褥婦の援助について、情報の分析・解釈（アセスメント）、健康課題・問題の抽出、看護計画の立案について記述。
2.Sexual orientation, gender identity, and schooling: The nexus of research, practice, and policy (Oxford University Press)	2016年10月	School safety and connectedness matter for more than educational outcomes: The link between school connectedness and adolescent health (pp. 39～57)
3.看護学テキストシリーズ NiCE 家族看護学（中山書店）	2008年5月～	アメリカの研究者によって開発された３つの家族看護アセスメントモデルと日本の研究者による家族エンパワメントモデルについて記述。アメリカで行われた家族看護に関するランダム化比較研究、カナダの家族看護研究者による質的研究、中国系カナダ人の女性による家族観についてのコラムを翻訳（第2版）。最新版は2022年3月に出版された改訂第3版。
4.今日の助産（南江堂）	2003年12月～	妊娠期および分娩期の女性の心理・社会的側面に対する助産ケア計画に必要な情報、アセスメント、ケアに

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
2 作成した教科書、教材		
5.看護のコツと落とし穴（４）女性・母性看護	2000年5月	ついて記述。 最新版は2019年3月出版の改訂第4版。複数の子どもをもつ母親に対する看護のポイントを記述。
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1.兵庫県実習指導者養成講習会 講師	2018年7月	臨床実習指導者となる看護師に対して、看護研究に関する講義を行った。
2.広島大学大学院医歯薬保健学研究院 特別講義 講師	2016年12月	広島大学大学院修士課程で母性看護学を専攻する大学院生に対し、LGB生徒の健康問題について講義を行った。
3.兵庫県専任教員養成講習会 講師	2016年7月～2018年7月	看護専門学校の教員となる看護師に対して、看護研究に関する講義を行った。
4 その他		
1.専攻長	2025年4月1日～現在	
2.幹事教授	2023年4月1日2024年3月31日	
3.広報入試委員	2017年4月～2019年3月	

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1 資格、免許		
1.助産師免許		
2.看護師免許		
2 特許等		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1.模擬授業（高校生対象）	2017年～現在	看護職に関心のある高校生を対象に、母性看護学の授業の一部を行っている。
4 その他		

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
1.看護学テキストシリーズ NiCE 家族看護学 改訂第3版	共	2022年3月	南江堂	アメリカの研究者によって開発された３つの家族看護アセスメントモデルについて記述した「海外のアセスメントモデル」（p.77～85）、日本の研究者による（p.72～75）「家族エンパワメント」を担当。
2.直前 母性看護実習プレブック 第2版	共	2019年8月	医歯薬出版	微弱陣痛の妊産婦の援助、遷延分娩後の褥婦の援助について、情報の分析・解釈（アセスメント）、健康課題・問題の抽出、看護計画の立案について記述。
3.今日の助産:マタニティサイクルの助産診断・実践過程（改訂第4版）	共	2019年3月	南江堂（編集：北川眞理子・内山和美、医学監修：生田克夫、）	「妊娠期の助産診断：心理・社会的側面に対する診断」（p.84～97)、「分娩期の助産診断：心理・社会的側面に対する診断」（p.408～413)を担当。
4.Sexual orientation, gender identity, and schooling	共	2016年10月	Oxford University Press	「School safety and connectedness matter for more than educational outcomes: The link between school connectedness and adolescent health」(p.39～57)を担当（Saewyc & Homma)。
5.看護のコツと落とし穴（４）女性・母性看護	共	2000年5月	中山書店（編集：小島操子・末原紀美代）	「二人の子供を持つ経産婦への援助」（p.152～153)を担当。
2 学位論文				
1.Factors associated with sexual initiation among East Asian adolescents in Canada	単	2012年5月	University of British Columbia, School of Nursing, Ph. D program	2008年（平成20年）に行われたブリティッシュ・コロンビア(BC)州の公立中高校生を対象とした大規模保健行動調査(2008 BC Adolescent Health Survey [BCAHS])をもとに、東アジア（中国、韓国、日本）系カナダ人生徒の性行動を分析。性経験に影響を及ぼす個人および文化社会的要因を明らかにした。
3 学術論文				
1.A市の子育てサークルに所属する妊婦と乳	共	2024年12月	日本災害看護学会誌，26（2)，19-	北出千春，本間裕子，浅野浩子

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
幼児を 育てる母親の災害の備えに関する実態調査 ―共助を高めるための支援に向けて―			30	
2.ストレス対処能力の向上をめざした産後うつ予防の看護実践 ―妊娠中期から産後1か月までの看護実践群と通常ケア群の経過から―（査読付き）	共	2024年11月	日本看護学会誌，19（2），112-116	間中麻衣子，本間裕子
3.更年期症状を自覚する女性の婦人科受診にいたらない要因の検討ーペンダーのヘルスプロモーションモデルを使ってー	共	2024年4月	母性衛生，65(1)，88-97	外村晴美、町浦美智子、本間裕子
4.YA世代でがんと診断を受けた女性の子どもを産み育てる過程と選択（査読付）	共	2023年6月	日本生殖看護学会誌，20（1），5-15	三宅知里，浅野浩子，本間裕子
5.産後うつ発症リスクのある女性への ストレス対処に着目した予防的介入の効果（査読付）	共	2022年4月	母性衛生，62(4)，803～810	間中麻衣子，町浦美智子，本間裕子
6.Health－risk behaviors and protective factors among adolescents in rural British Columbia（査読付）	共	2020年1月	Journal of Rural Health DOI: 10.1111/jrh.12389	Geczy, I., Saewyc, E.M., Poon, C.S., & Homma, Y. 都市部在住の同性の生徒と比較して、地方在住の男子生徒は喫煙・シートベルト未着用の割合が高く、地方在住の女子生徒ではシートベルト未着用の割合が高かった。男子生徒では、学校への帰属感や友人の向社会的態度がビンジ飲酒や喫煙行動の防御因子として関連していた。
7.ホルモン補充療法を受けている更年期女性の体験（査読付）	共	2020年	四条畷学園大学看護ジャーナル，4，pp.1-11	外村晴美，町浦美智子，本間裕子
8.Are we leveling the playing field? Trends and disparities in sports participation among sexual minority youth in Canada（査読付）	共	2018年	Journal of Sport & Health Science，7(2)，218～226 DOI: 10.1016/j.jshs.2016.10.006	Doull, M., Watson, R. J., Smith, A., Homma, Y., & Saewyc, E. スポーツ界におけるホモフォビア（同性愛嫌悪）的文化が問題になっている。カナダBC州の中高生では、性的指向に関わらず、スポーツ参加率が低下しており、性的マイノリティ生徒はヘテロセクシュアル生徒と比べて、公式（コーチ付き）スポーツ・非公式（コーチなし）スポートの参加率が低かった。非公式スポーツ参加では性的マイノリティ生徒とヘテロセクシュアル生徒との格差は縮小していたが、公式スポーツ参加では格差は拡大する傾向にあった。
9.Trends and disparities in disordered eating among heterosexual and sexual minority adolescents（査読付）	共	2017年	International Journal of Eating Disorders. 50(1)，22-31. doi: 10.1002/eat.22576	Watson, R. J., Adjei, J., Saewyc, E., Homma, Y., & Goodenow, C. 米国マサチューセッツ州の中高生保健調査データを分析し、性的マイノリティ生徒に摂食障害行動が多いこと、特にレズビアン生徒とヘテロセクシュアル生徒との間の格差が広がっていることを明らかにした。
10.Sexual orientation trends and disparities in school bullying	共	2016年	Psychology of Sexual Orientation and Gender	Goodenow, C., Watson, R.J., Adjei, J., Homma, Y. & Saewyc, E. 数多くの横断研究で性的マイノリティ生徒はヘテロセクシュアル生徒より暴力の被害者になりやすいことが報告されている。隔年で実

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
and violence-related experiences（査読付）			Diversity, 3(4), 386-396. doi: 10.1037/sgd0000188	施される米国マサチューセッツ州の中高生調査4年分のデータを分析したところ、両群ともにいじめ被害や暴力に関する経験は減少傾向にあったが、依然として格差は存在していた。
11. Is it getting better? An analytical method to test trends in health disparities, with tobacco use among sexual minority vs. heterosexual youth as an example（査読付）	共	2016年	International Journal of Equity in Health, 15, 79. DOI: 10.1186/s12939-016-0371-3.	Homma, Y, Saewyc E, & Zumbo B. 性的マイノリティの若者はヘテロセクシュアルの若者よりリスク行動をとり、心身の健康レベルが低いことが多い。5年毎に実施されているカナダBC州における大規模な思春期保健調査の3回分のデータを用いて、両群の健康格差の変化の有無を分析した。両群とも喫煙率は低下していたが、格差はまだ存在していた。
12. Improving the accuracy of Chlamydia trachomatis incidence rate estimates among adolescents in Canada（査読付）	共	2015年	Canadian Journal of Human Sexuality, 24 (1), 12-18.	Mitchell, K., Roberts, A., Gilbert, M., Homma, Y., Warf, C., Daly, L. K., & Saewyc, E. M. 年齢別性感染症発生率は当該年齢の全人口を分母としてを計算するが、ほとんどがセックス経験のない思春期ではこの計算方法では実態を反映しない。そこで、カナダBC州における大規模な思春期保健調査データを用いて、セックス経験のある14～18歳男女のクラミジア検査率と発生率を計算し、従来の計算方法との比較を行い、問題点を明らかにした。
13. Enacted stigma and HIV risk behaviours among sexual minority indigenous youth in Canada, New Zealand, and the United States（査読付）	共	2014年	Pimatisiwin: A Journal of Aboriginal and Indigenous Community Health, 11(3), p.411～420.	Saewyc, E., Clark, T., Barney, L., Brunanski, D. & Homma, Y. カナダBC州、ニュージーランド、米国ミネソタ州で行われた大規模な思春期保健調査に参加した先住民の生徒のデータを分析。性的マイノリティ生徒はヘテロセクシャル生徒より、差別や学校でのいじめをうけていることが多いこと、差別やいじめの経験はHIV感染リスクを高める行動（コンドームを使用しないセックスや薬物注射など）と関連があることがわかった。
14. School-based strategies to reduce suicidal ideation, suicide attempts and discrimination among sexual minority and heterosexual adolescents in western Canada（査読付）	共	2014年	International Journal of Child, Youth and Family Studies, 5(1), p.89-112	Saewyc, E. M., Konishi, C., Rose, H. A., & Homma, Y. Gay-straight alliances（ゲイ・ストレート同盟）や学区のanti-homophobic bullying policy（性的マイノリティに対する偏見・嫌悪に基づくいじめに反対する規則）をもつ高校あるいはこれらのプログラムの施行期間が長い高校では、生徒の自殺傾向や差別された経験がより低かった。
15. Psychometric evaluation of the 6-item version of the Multigroup Ethnic Identity Measure with East Asian adolescents in Canada（査読付）	共	2014年	Identity: An International Journal of Theory and Research, 14(1), 1-18	Homma, Y., Zumbo, B. D., Wong, S.T., & Saewyc, E. M. PhinneyとOng によって開発されたMultigroup Ethnic Identity Measure-Revised（MEIM-R：民族アイデンティティ尺度・改訂版）の、 BC州の東アジア系生徒グループにおける信頼性と妥当性を検討した。生徒の年齢や文化的背景（カナダ在住年数や家庭で話している言語）に関わりなく、MEIMは対象の民族アイデンティティを同じ尺度で測定することを明らかにした。
16. Population-level evaluation of school-based interventions to prevent problem substance use among gay, lesbian	共	2013年	Preventive Medicine, 57 (6), p.929～933	Konishi, C., Saewyc, E., Homma, Y., & Poon, C. Gay-straight alliances（ゲイ・ストレート同盟）や学区のanti-homophobic bullying policy（性的マイノリティに対する偏見・嫌悪に基づくいじめに反対する規則）をもつ高校に在籍する性的マイノリティ生徒およびヘテロセクシャルな生徒では、これらのプログラムのない高校の生徒と比べて、飲酒や薬物使用率が低かった。

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
and bisexual adolescents in Canada（査読付）				
17.Sexual health and risk behaviour among East Asian adolescents in British Columbia（査読付）	共	2013年	Canadian Journal of Human Sexuality, 22 (1), p.13～24	Homma, Y., Saewyc, E. M., Wong, S.T., & Zumbo, B. D. BC州の東アジア系中高生の性体験率を調べた。1割弱の生徒がセックス経験あり。性経験のある生徒のうち、7割がなんらかの危険とされる性行動（例：コンドームを使用しない）を経験していた。カナダ生まれや家庭で英語を話す生徒に比べると、移民や家庭で英語以外の言語を話す生徒はセックス経験率が低かった。
18.A profile of high school students in rural Canada who exchange sex for substances（査読付）	共	2012年	Canadian Journal of Human Sexuality, 21 (1), p.29～40	Homma, Y., Nicholson, D., & Saewyc, E. M. BC州地方都市の中高生を対象とした薬物使用行動調査を分析し、薬物との交換を条件にしたセックス経験者の割合、および彼らの特徴を記述した。
19.Substance use and sexual orientation among East and Southeast Asian adolescents in Canada（査読付）	共	2012年	Journal of Child and Adolescent Substance Abuse, 21 (1), p.31-50	Homma, Y., Chen, W., Poon, C.S., & Saewyc, E.M. 2003年（平成15年）のBCAHSに参加したアジア系中高生では、性的マイノリティの生徒にアルコールや薬物使用が多いことがわかった。
20.The relationship between sexual abuse and risky sexual behaviour among adolescent boys: A meta-analysis（査読付）	共	2012年	Journal of Adolescent Health, 51 (1), p.18-24	Homma, Y., Wang, N., Saewyc, E., & Kishor, N. 思春期男子の性的被虐待経験と危険な性行動（コンドームを装着しないなど）との関連の強さをメタ分析した。
21.Stigma management? The links between enacted stigma and teen pregnancy trends among gay, lesbian, and bisexual students in British Columbia（査読付）	共	2008年	Canadian Journal of Human Sexuality, 17 (3), p.123-139	Saewyc, E. M., Poon, C.S., Homma, Y., & Skay, C.L. 1992年（平成4年）から2003年（平成15年）までの過去3回のBCAHSを二次分析した。性的マイノリティ生徒に対する差別やいじめと、妊娠経験、その他の性的リスク行動との関連を明らかにした。
22.Trends in sexual health and risk behaviours among adolescent students in British Columbia（査読付）	共	2008年	Canadian Journal of Human Sexuality, 17(1-2), p.1-12	Saewyc, E., Taylor, D., Homma, Y., & Ogilvie, G. 1992年（平成4年）から2003年（平成15年）までの過去3回のBCAHSを分析し、BC州の中高生の性行動割合の変化を記述した。
23.The emotional well-being of Asian-American sexual minority youth in school（査読付）	共	2007年	Journal of LGBT Health Research, 3 (1), p.67-78	Homma, Y., & Saewyc, E. M. アジア系アメリカ人の性的マイノリティ生徒では、家族や学校との関係の悪さが自尊感情の低さに関連し、さらに精神的苦痛をもたらす危険があった。
その他				
１．学会ゲストスピーカー				
２．学会発表				
1.Comprehensive Family Conference with Participation of Parties and the Path to Introducing	共	2024年8月21日	The 8th World Academy of Nursing Science (WANS) Congress in Conjunction with The 5th	Yasui N, Kawahara T, Mine H, Kimura C, Honma Y, Tsumura A, Yamazaki A (Poster Presentation)

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
Advance Care Planning			International Conference of Indonesian National Nurses Association (ICINNA), Indonesia	
2.A Literature Review on the Theoretical Foundations of Intervention Programs for the Relationships of Couples Expecting Their First Child	共	2024年3月6日	The 27th East Asian Forum of Nursing Scholars (EAFONS) Conference, Hong Kong	Masui Y, Kawahara T, Homma Y, Kimura C, Mine H, Yamazaki A (Poster Presentation)
3.妊娠期カップルの関係性への介入に関する国外文献検討	共	2023年9月	日本家族看護学会第30回学術集会	桝井悠衣，川原妙，本間裕子，木村千里，峰博子，山崎あけみ
4.無痛分娩管理体制の実態と無痛分娩の教育に対する助産師の意識	共	2022年9月9日	第63回母性衛生学会学術総会	阪田あみ，本間裕子
5.更年期症状の自覚や症状の程度と婦人科受診の実際	共	2022年9月9日	第63回日本母性衛生学会学術集会	外村晴美，町浦美智子，本間裕子
6.睡眠健康教育とセルフモニタリングを用いた妊婦への睡眠健康支援	共	2021年12月	第41回日本看護科学学会学術集会抄録集，p.110	東本幸代，町浦美智子，本間裕子
7.妊娠中期のEPDS9点以上の女性の産後1か月までのストレス対処への援助	共	2020年	第61回日本母性衛生学会総会 学術集会抄録集，p.150	間中麻衣子，町浦美智子，本間裕子
8.産後うつ発症リスクのある女性へのストレス対処に着目した予防的介入の効果	共	2020年	第61回日本母性衛生学会総会 学術集会抄録集，p.147	間中麻衣子，町浦美智子，本間裕子
9.妊婦の妊娠・出産・育児に関するヘルスリテラシーの実態	共	2019年6月	第21回日本母性看護学会学術集会（広島）	出産準備教室に参加した約400名の初産婦を対象に、妊娠／出産／育児に関する情報の入手方法やヘルスリテラシーのレベルを調査した。（副指導教員として指導した平成30年度修士論文の一部の発表。） 共同発表者：長瀬徳子、町浦美智子、本間裕子
10.Individualized education program to prevent postpartum depression among Japanese first-time mothers in late pregnancy and early postpartum	共	2019年1月	22nd East Asian Forum of Nursing Scholars（Singapore）	産後うつを予防するための個別プログラムを初産婦に実施し、妊娠・産褥期の経過を観察した。(博士論文副指導教員として指導している大学院生の研究発表。) 共同発表者：Manaka, M., Kawazoe, M., Sasaki, A., Machiura, M., & Homma, Y.
11.Preventing suicide in LGB youth at school: A Canadian example	共	2016年5月	7th Asia Pacific Regional Conference of the International Association for Suicide	米・豪・香港の研究者とのシンポジウム企画・発表 共同発表者：Homma, Y.(演者), McDermott, E. (演者), Parsons, M.(演者), Tang, D.T. (演者) 共同研究者：Saewyc, E. M., Konishi, C., Rose, H. A., & Homma, Y.

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
			Prevention（東京）	
12.Trends in disordered eating by sexual orientation in western Canada	共	2014年2月	Journal of Adolescent Health, 54(2, Supplement)	Homma, Y., Beaulieu-Prevost, D., Rose, H. A., & Eisenberg, M. E. 学会抄録 ポスター発表
13.Population interventions to reduce suicidality among sexual minority youth	共	2013年6月	2013 IASR World Congress on Suicide（Quebec, Canada）	シンポジウム発表 Saewyc, E. M.（座長兼演者）, Homma, Y.（演者）, Moretti, M.（演者）, & Pyne, J.（演者）
14.Sexual orientation, stigma, and menarche among adolescent girls in Canada	共	2012年2月	Journal of Adolescent Health, 50(2, Supplement)	Saewyc, E., Homma, Y., Hitchcock, C., & Prior, J. 学会抄録 ポスター発表
15.Does a family context foster cultural connectedness among East Asian Canadian adolescents?	共	2010年6月	Pathways to Resilience II: The Social Ecology of Resilience conference（Nova Scotia, Canada）	Homma, Y., & Saewyc, E.
16.Is cultural connectedness a protective factor?	共	2010年2月	Journal of Adolescent Health, 46(2, Supplement)	Poon, C.S., Homma, Y., & Saewyc, E. M. 学会抄録
17.Restoring family support, self-esteem, and reducing distress among sexually abused young runaways	共	2009年2月	Journal of Adolescent Health, 44(2, Supplement)	Edinburgh, L., Homma, Y., Saewyc, E., Wirkkala, S., & Mickschl, L. 学会抄録 ポスター発表
18.Acculturation and sexual behavior among East Asian adolescents in British Columbia, Canada	共	2008年2月	Journal of Adolescent Health, 42(2, Supplement)	Homma, Y., & Saewyc, E. 学会抄録 ポスター発表
３．総説				
４．芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
５．報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
1.第19回日本母性看護学会開催報告	単	2018年3月	武庫川女子大学看護学ジャーナル	第19回日本母性看護学会学術集会について報告した。
2.看護学テキストシリーズ　NiCE 家族看護学 改訂第２版	共	2015年12月	南江堂	「家族の質的研究について思うこと①」（p.233～234）、「家族の質的研究について思うこと②」（p.235～236）、「家族の質的研究について思うこと③」（p.238～239）、「家族看護実践のエビデンスをつくる：ランダム化比較試験（RCT）」（p.250～259）の翻訳（英日）を担当。
3.Gay-straight alliances in schools linked to lower suicide risks for gay and	共	2014年2月	Smart Sex Resource（BC Centre for Disease Control）	Homma, Y., & Saewyc, E. 2014年に International Journal of Child, Youth and Family Studiesで発表した論文の内容を、一般市民や保健医療従事者向けに要約したもの。

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
５．報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
straight students				
4.Sex and East Asian teens in BC	共	2013年9月	Smart Sex Resource (BC Centre for Disease Control)	Homma, Y., & Saewyc, E. 2013年にCanadian Journal of Human Sexualityで発表した論文の内容を、一般市民や保健医療従事者向けに要約したもの。
5.Resilience in youth coping with stigma (Cafe Scientifique)	共	2013年	Cafe Scientifique (Vancouver, BC, Canada)	Saewyc, E., Lal, S., & Homma, Y. 精神疾患、性的虐待、性的マイノリティなどstigma（社会的汚名）を負う若者の体験や支援に関する講演・討論会 Canadian Institutes of Health Research後援
6.Teen Sexual Development: What Parents Need to Know (Cafe Scientifique)	共	2012年	Cafe Scientifique (Burnaby, BC, Canada)	Saewyc, E., Chen, W., & Homma, Y. 思春期の子供を持つ親を主な対象とした性に関する講演・討論会（中国語通訳付） Canadian Institutes of Health Research後援
7.Not Yet Equal: The Health of Lesbian, Gay, & Bisexual Youth in BC	共	2007年	McCreary Centre Society (Vancouver, BC)	Saewyc, E., Poon, C., Wang, N., Homma, Y., Smith, A., & the McCreary Centre Society. 報告書 2003年のBCAHSに参加した性的マイノリティの中高生の保健行動を、ヘテロセクシャルの生徒と比較し、問題点を明らかにした。
６．研究費の取得状況				
1.家族ライフサイクル移行期における看護職による包括的家族カンファレンスの導入	共	2022年4月～2026年3月	科学研究費助成金（基盤研究C）	研究分担者（研究代表者：山﨑あけみ）
2.思春期女子のボディイメージとダイエット行動に関する縦断研究	単	2020年4月	科学研究費助成金（基盤研究C）	
3.妊娠期の睡眠の質改善のためのセルフモニタリングの効果	共	2018年4月～	科学研究費助成金（基盤研究C）	妊娠中の睡眠に関するセルフモニタリング（睡眠日誌の記入など）が睡眠の質改善につながるかを検証する実験研究。 研究分担者（研究代表者：東本幸代）
4.家庭における性教育と父子関係に関する研究	単	1999年4月～2001年3月	科学研究費助成金奨励研究（A）	高校生とその父親を対象に質問紙調査を実施。家庭における性教育の実態と、父子間の認識の一致・不一致、家族関係との関連を調べた。

学会及び社会における活動等	
年月日	事項
1.2023年～現在	常任査読員（日本看護科学学会和文誌）
2.2018年	2018年度 兵庫県保健師助産師看護師実習指導者講習会 講師
3.2018年	2018年度 兵庫県専任教員養成講習会 講師
4.2017年1月10日～2017年9月30日	第48回日本看護学会慢性期看護学術集会抄録選考委員
5.2016年～2017年	第19回日本母性看護学会学術集会事務局長
6.2016年	2016年度 兵庫県専任教員養成講習会 講師
7.2015年～現在	投稿論文査読（Journal of Adolescent Health, Child Abuse & Neglect, American Journal of Public Health, Violence & Victimsなど）
8.2015年～2017年	翻訳メンバー（JBI-Kobe Linguistic Translation Center）
9.2014年1月～現在	常任査読員（Nursing Research）
10.2012年10月～現在	編集委員（Journal of LGBT Youth）